富士商會

第10回法人セミナー
リーダーシップの本質問う基調講演

富士商會（東京都千代田区・中江久人代表取締役社長）は11月13日、東京都千代田区の帝国ホテル東京で10回目の節目となる法人セミナーを開催した。当日は陸上自衛隊で陸将第一師団長として約6400人の隊員を統率し、現在は企業や教育機関などで人材育成やリーダーシップ関連の研修を行っている反怖謙一（たんぷ・けんいち）氏が、「リーダーシップの本質について」と題して講演した。反怖氏は集まった同社の顧客ら40人を前に、自身の経験から培った「真のリーダーシップ」について熱弁をふるった。

反怖氏

中江社長

4月に就任した中江久人社長があいさつ

第1部の記念講演に登壇した反怖氏は、37年間の自衛隊勤務の経験をもとにしたリーダーシップ論を披露した。

反怖氏はまず簡単に自己紹介をしたのち、リーダーシップの定義について説明した。「リーダーシップの唯一の定義はつき従う人がいること」と述べ、リーダーシップはつき従う人と従われる人の相互の関係性により複雑な人間関係を操るものであり、インフォーマルな人間関係をうまく処理していく技術だと述べた。そのため、リーダーシップを発揮するのに肩書や役職、上下関係などは関係なく、誰もがどんな環境においてもリーダーシップを発揮することができると説明した。

さらに反怖氏は、リーダーシップは研究が進んでいるものの解明されていないことが多い分野で、現状最適解は存在しないと述べた。また自らの経験をもとに、組織はリーダーの器以上のものにはならないことや、優れたリーダーのいない組織が無気力になることなどを語った。そしてリーダーシップには①指揮②統制③統御④教育―の四つの機能があることなどを説明した。

講演の最後にはリーダーシップに関連し、反怖氏は自らの死生観を語り、いつも死を覚悟し、ロッカーに「最期の手紙」を用意していた自衛隊での現役時代の勤務と、その自衛隊で定年を迎えた際に妻に言われた言葉などを紹介しながら、その職責の重さと家族の思いを参加した富士商會の顧客らに伝えた。

第2部「感謝の会」では、参加者同士が立食形式で交流を深めた。会の中では同社代表取締役社長の中江久人氏が主催者を代表してあいさつし、10回目を迎えたセミナーの開催について顧客らに謝辞を述べた。また今回のセミナーについて、「4月の社長就任以降いろいろ分からないなか、手探りで進んできたが、今日の反怖氏の講演を聞いて、自分がやってきたことは間違いではないと少しホッとした。また死生観についても感銘を受け、今後も日々を大切に、従業員や仕事と向き合っていきたいと思った」と感想を述べた。